



凡生
3747
2二

香坤乾抄卷

大正
25.9.23
東京

筑前名寄下卷目錄

宗像郡 十一取

養生浦 鐘沙崎 桂浮 海中道

有千浮 名原山 大嶋 奥嶋

荒弘沙社 小倉形山 宗像山

遠賀郡 六取

園湊 蘆屋 岳間野檜 波懸山片

鶉濱 大渡川



夜負郡 一不

安野

上座郡 一不

朝倉

早良郡 五不

生松原 也良崎 千賀浦 能解浦

草香江

怡土郡 四不

怡土嶋 怡土溪 深江海 子貞原

志摩郡 四不

韓泊 引津 可也山 立石崎

右六十二所其在處境地既顯其
餘在處未詳者及於本列其有
無不分明或名寄等書誤取人名
為名所者並記之在
可之布江 木綿間山 許能本山 鳴香渡

織面湊

紫粉浮海

右為五所花並
左處未詳

角馮迫門

長門有
角馮

大浦人名

筑紫小馮人名

水馮

肥後有
水馮

馮浦

左乃小河

此二處疑
左池列

筑前名寄目錄

其五

筑前名寄目錄其五

筑前名寄下卷

宗像郡

叢生浦

福留と新交乃湊の事

貝原篤信編輯

云宗祇法師の指南抄にも新交と云ふ

水なり遠き三里と云ふ頃和名抄に宗像

郡に叢生の川と云ふ今上西の村に叢生と云

枝村ありむらけと云ふと云ふの如乃

と云ふ

と云ふ

我らあまのつらみはるるこころこころ人のこ
てをこころゆめまつりき

後拾遺六

うかりたるまはゆのうらうらを具

むらさきののこころなきる 馬因侍

懐中抄

みのこころゆめはのこころはつ

のこころひ乃ともるこころ

鐘の山崎 鐘崎所の水織幡乃神社ある

山乃水の山崎伝云むら二舞まつるぬ

いよ波より日け海はまのつらみはるるこころのあま
取織幡山乃良の方立所こころはつ
あまこころも鐘あまのつらみはるるこころはるるこころ
里人のつら

万葉七

千早振ぬぬ乃まはるるこころ

我まはるるこころまはるるこころはるるこころ

新古今六

まはるるこころはるるこころはるるこころ

ぬのこころはるるこころはるるこころ

志集 在るにきくぬるのうまひのよきを

たぐしをのくもりかりの事 俊相

大なる きたるはぬぬの湖のうまひ

原路と波日夷事へてぬ 三位成重

桂浮 勝酒といふ燕星の面はありて遠

千浮なり進代に彩田となりてと浮す

海乃中道はくもり也奇い下もきくも

海中道のたう 勝酒村と梅海のうけ海申は

道は云を長きなり十町とありあり昔

勝浦と津屋勝とあり皆入海なりし

はまの南は海ありて海舟はありて道

なまの海の中をさしてはるなりし一説

小志賀嶋と奈多浦との間は長き志砂

地は海乃中をさしてはるなりし桂浮と

云中進代の人乃紀行はあり志賀嶋の南

より好里人といひされし奈多浦の海はあり

桂と云里は千の浮は、南の海は、
是破ありて浮く云へし、
又山を
つと海乃中なる古歌、
中道乃末の山、
乃ろろ浮の西、
是かつて、
多の流、

先舟、
而あり、
もわ、
又宗、
其、
と、
又世、

〇〇〇〇

万葉六考の長可

お和なむじらそくまのまな神をば

名つらとあに免名日乃名見山

負てこつあひ乃まへのひくもな

さうなつて

右万葉集日天平二年冬十一月大伴

坂上郎女イハノ葺フキ帥家上道ニ超ニ筑紫國宗

形部名見山ノ之時化歌一首こころあ大

己ナムチノ夫余少彦名命スツチ乃乃神ちり

此故あまを西参の下は海之市行み由日本紀

神代のはま日まのつゆのたぐくあつたつた

大馮 此馮あま照大神乃ヒメノ伊弉女宗像の三

一ヒメ度ヒメのヒメ免神名肉ヒメ一ヒメちヒメ名神ヒメ打ヒメり

下は日本紀神代のはま日ヒメ中ヒメ儼ヒメとヒメかヒメきヒメ一ヒメはヒメ是

非季

和人も考を述はるる大いなる

うらみ新しは日あま乃まの神を

御書

右の奇蹟氏物語云くつれを承りて寧
少氣のむきあひ許く奇とくこのをり

夫亦 さらさらと身はくおとく大鳴の

神のうきはるのきくわたり具氏

おきの 奥鴻 けき大志戸持くかのおまいぬいのち

三十里とわたり又あま宗像を三とらけ

ひ免神の内一とらけ神くにおりまは

此心くむきあひなるびとくあまおま

つれあはき鳴かり社のまは鼓名とてあり

奇はくあまは是がく下し日本紀身一まり

おきつるまをさりけ神乃靈威をば國

人甚おとく三神名因今一神は田嶋村

よおとくまは日本紀ま海濱とくま

夫亦 本らむとくまはをばおさる

唐人くをぬおまのくまわり 凡件

恙和社 おきの 奥鴻はありき大鳴神と云神也

今も之を正に是れ取らざるは其の形なる
大忠あり

於此より七物の名

第一は紫もくねりたる物なり
第二は

小屋形山 藻垣系小形書はけ國はあり中

より其の鐘聲乃上より其の山あり

清ら子丑の香より其の山あり

やうかり山二つあり其の山あり

之山の尾良乃方北海をよつに其の山をさ
やの尾と云ふは迫門とあり其の山は地
乃嶋のりなり下しは迫門とあり其の山は
八町ありあり其の山は迫門を東の方より
は其の山は迫門を右よりとあり其の山は
織幡の神社あり其の山は迫門とあり其の山は
まろくしとあり其の山は迫門とあり其の山は
き山とあり其の山は迫門とあり其の山は

日本紀曰神武天皇日向の國より東征し
新小野志筑紫の國の水門より舟を以て
舟より入る志筑紫より人皇孫初よりきて
この所乃名いらしきく舟は海より入る
き名取なり一説は内浦と吉本村の所
者に入海する是筑紫の國なりといふこと
されども仙毫の爲築紫は抄は筑紫風土
記を引くといふに於て筑紫の東の側を

大野江にあり名つらるるおろし江と云大
野江といふは古くは記きわく築紫は筑
紫の里に遠賀の所を東よりあり風土記
は筑紫の東乃側は近しとあり筑紫は
筑紫に是と云ふし大河の末なる大野江
は筑紫の東なり況又筑紫の里民も昔
より筑紫の國の邊と云ふは中より筑紫
吉本の川に小川なり大野江はと云ふ

畏のうねりなり秋うを共樹く 公朝

弟及集

五月雨の日敷はまらあくまの

畏の濤はさううさうく所麻 於阿

於衆

いさうくを共飛くはあき

畏乃みぢるあきの志和を 行書

茅屋

於玉

ちとまらつられあをまはと

あきのまらつられあをまはと 意林

所 有國乃志也其のうねり

あきの仲はを共秋月うけ 意林

月 けの國のあきはあき

けりやもあかきうねり

山野橋 昔茅屋と山麻のうねり

よけをう往来乃橋なりけり

変との船もあき変り一町ともあ西

年あき茅屋のうねり橋つらぬとも橋

浪懸岸

芦屋の如く山麓くし雨のい海舟

乃ち舟海道も南亭大浪急小浪急とく

二不あ亭一山の松も南亭岸あり一

い山もつゝ山乃西の磯もあつたききと

いつても海色のきつゝ浪のつゝあつた

懐中抄

我社乃ぬ新を何れとく人き

波のきつゝ世もなかりき

天本

松のねもあつたねもあつた年と経て

夫某

浪急乃つゝのねもあつたき

ものねもあつたつゝねのき

鶉濱

芦屋の西岳の松系もあつたき

とまむちり酒村もあつたつゝつゝ

清濁同音也

懐中抄

わりのもあつたねもあつた

つゝつゝつゝつゝつゝつゝ

右乃奇い方葉集才に書曰大宰
帥大侍の孫大貳丹比縣守卿遷任任
民部卿歌一首と如りかりかりとりの
もぎかり酒はつらかりた事

上座郡

朝倉 木凡殿 朝倉園 山



清酒與儀抄又天智天皇世つつりの
とりありては筑前國上座郡朝倉山と云ふ

又山中に是木は屋は他はおりまり方
故未乃瓦殿と云ふ木はもも他ももも用い
まり紗のもも入り人ももも日のりり
つり入り名ももも朝文粹才二巻
三善清行乃言見對事又傳中國風土
記に列す曰皇極天皇六年大唐の將
軍蘇定方新羅の軍は卒ひて百海と
りの百海より供養して救をこし 天皇

統紫玉行幸一教の兵部いさるんす
之後 玉皇の統紫玉行幸にて崩す
ひ終りて軍法なり行ふるなり
吾れ公の持覧の人也之見封事の吾れ
公行る子よそくまの奏書なり風土
記の元明天皇乃勅すなまの精く
るす行りけ二書いさるなり
是の法必しをいさるなり且又

卷第百廿七

既の雲山抄清輔奥後抄菅原為長十訓
抄宗碩法師藻垣等も皆朝倉末
丸殿朝倉山筑前國もありは
法師の説又を代の人を宗あり
も皆是日あり我日梁塵也抄日朝倉
社に返喜式神名帳も土佐國土佐郡
日朝倉の事あり風土記も土佐朝倉
乃日朝倉の社ありと云ふは日朝倉の内

卷第百廿八

新羅の倭強國より土佐の西へ移りし
るるや新羅の末元敏の土佐の國はあ
れ古事本あやうき筑紫の事と
書けり今この日本文紀をかんじり
齋明天皇六年新羅より百済と
くろくし君占とてくろくしをわたり百済
は福佐の使來りて救の兵はひ且是
より日本文人質りて献き百済

乃王子を^志孫を運取る百濟の王とせん
と十二月天皇福佐の元元は言ひまの
きて筑紫の幸志て救の軍は百済
つらとせんとおほりて是難波の文は
新の諸の軍急と侍りて百濟の
は新羅とせんとて百濟の國は
造りて七年正月西に移りて始
る海路は庚戌の年倭強國の

津の石湯を承りて文より二月庚申法
和をく于^ふ娜乃大津より^{いんせき}磐漱の^{ふりふ}行文
より居^い行^い五月癸卯天皇遷て朝倉橋
乃唐庭の文より^い行^い朝倉を社の事記
きありて^い行^い文より^い行^い天智天皇
の太子より^い行^い文より^い行^い七月新^い天皇
朝倉乃文より^い行^い八月日皇を子と
皇孫喪と^い行^い文より^い行^い磐漱の文より

又孝和天皇十月天皇孫喪^い行^い文より
十一月天皇乃喪と^い行^い文より^い行^い飛鳥川^い天皇孫^い喪^いと^い行^い
るより日記の文より^い行^いと案をり
天皇百海城^い救^いと^い行^い文より^い行^い天皇孫^い喪^いと^い行^い
事^い行^い豫^いの^い祝^い堂^いへ^い下^いり^い行^い道^いを^い行^い文より^い行^い
天皇志^いと^い行^い文より^い行^い天皇孫^い喪^いと^い行^い
振は國より^い行^い文より^い行^い天皇孫^い喪^いと^い行^い
より^い行^い新羅の兵唐の人^い行^い文より^い行^い

海を西の百海の名長等と稱する所也
其の西は其の船をつくらざる所也
其の東は其の船をつくらざる所也
其の南は其の船をつくらざる所也
其の北は其の船をつくらざる所也
其の西は其の船をつくらざる所也
其の東は其の船をつくらざる所也
其の南は其の船をつくらざる所也
其の北は其の船をつくらざる所也

六十里の間に浪風ありて船の進む
事多かりし海陸ともに其の進む事
多かりし海陸ともに其の進む事
多かりし海陸ともに其の進む事
多かりし海陸ともに其の進む事
多かりし海陸ともに其の進む事
多かりし海陸ともに其の進む事
多かりし海陸ともに其の進む事
多かりし海陸ともに其の進む事

〇〇〇〇〇〇〇〇

云那あり是亦めり皇初文の所なり
石徹の程彼より上座の朝倉へは東の道
なり是亦朝倉の文前あり其説と
是より土佐とも朝倉の社ありといへ
も同名乃地同名の社あり多き事
ありしより土佐は朝倉ありといへん
とけり朝倉ありと説よりいふあり
んやまた糸の寺は朝倉や織面の湊

朝倉

よあひなるもあまはめりにおいしあり
なりといふ織面の湊も深垣寺あり筑
前と云ふより上座の朝倉海より遠けれ
大河乃より漁人多しなり土佐の朝
倉のほりより磯面の湊と云ふなり
朝倉乃川向よりいなり是亦朝倉の湊と云ふなり
ありといふ朝倉の海と云ふもあり
ありといふ朝倉の海と云ふもあり
ありといふ朝倉の海と云ふもあり
ありといふ朝倉の海と云ふもあり

朝倉

一日本史には古人の説多く今も其處
の古くは聖人も其處を言ひて云傳へ傳
と云ふ一は又亦西の皇の山陵と云
上座の御倉山の側はあまともて日本天
皇の喪誂らうと云云鳥川系は疎と云
日本紀は云くゆまなく日本山陵はあま
は云はれけ地と云崩しけりけりは云
云々云々云々云々云々云々云々云々云々

乃其終りの世はあまともて日本紀を
文の本末は云く考へん人の風土記を
朝文抜ハ雲山抄奥後抄子訓抄抄藻垣
等為あまとの古人の説あまともてあ
り事は知れし梁塵愚抄の他志は皆治れんが
まの日本末字乃高は云はれん事云
及ては我々智者も亦道をもて必一夫あり
者も亦道をもて必一得ありと後人の説あり

事のやうに是心の語もして侍も必ず赤人哉
後をいふはあはれ我説も定めてひらけし
かへはれも志もくもくもあつたきくも
識者乃折衷とすれ

奥慶秘抄

朝倉や木の丸屋日けのよき

奥儀抄 新古今雜中

あきくも木折丸のり家おま

名のりきつておまのり子哉

天智三郎
清家

新古今雜中

あきくも木折丸のり

あけのり

夫亦

あきくも木折丸のり

視部成仲

あきくも木折丸のり

湯集

あきくも木折丸のり

あきくも木折丸のり

類聚

あきくも木折丸のり

あきくも木折丸のり

早良郡

生^{いきの}松原 此松原東西十二町南水信町と
其阿^ありま地水海より平らなる白沙
より基い^いち^ちなる^{なる}世々^{せせ}言^{こと}は^はら^らる^るを^をか^かい^い神
功皇后の三御を伐日^ひ越^こす^す内^{うち}松^{まつ}の枝
はけ地^ちも^もく^くく^くを^を事^{こと}な^なせ^せ敷^{しき}を^をい
らに^らゆ^ゆを^を行^いく^くに^にけ^け松^{まつ}の^の枝^{えだ}い^いま^まな^なん
中^{ちゆう}松^{まつ}の^の枝^{えだ}い^いま^まな^なん

乃松と名つけり

い^いの^のち^ちが^がな^な生^{せい}の^の松^{まつ}原^のい^いま^まな^なん

松^{まつ}原^のい^いま^まな^なん 茶家

む^むら^らり^りき^き波^{なみ}を^をい^いま^まな^なん

い^いま^まな^なん 橋原

い^いま^まな^なん

い^いま^まな^なん 母

い^いま^まな^なん

塩原ももちくせんもあまうきさうきり今を
あやうりてく荒崎とま

万葉集下六

おふつぞり鴨とりよみんくわのこ

月
やうは崎よれもくつたうき

おふつもかきらふおのやうのき

もくそくまくとまうけあうも

右二首筑前國志賀白木^ノ原^ノ新十首
の内也或云筑前國守山上憶良^ラ化



此奇^ラ

予^ノ頃^ノ浦 藤原^ノ大^ノ名^ノ奇^ノな^ノく^ノ筑^ノ前^ノと^ノさ^ノう

きり星^ノ氏^ノの^ノ説^ノも^ノ何^ノ村^ノの^ノ東^ノ乃^ノは^ノり^ノ松

云^ノ中^ノも^ノく^ノり^ノは^ノ傳^ノへ^ノゆ^ノり^ノ今^ノの^ノ福^ノ岳^ノの^ノ株^ノ乃

海^ノ中^ノの^ノ大^ノ壙^ノい^ノま^ノく^ノ入^ノ海^ノな^ノり^ノし^ノ中^ノの^ノ由^ノ是^ノ

と^ノ西^ノ水^ノの^ノ風^ノく^ノり^ノ松^ノ比^ノの^ノ東^ノ南^ノ方^ノの^ノま

り^ノま^ノ志^ノま^ノり^ノも^ノ波^ノを^ノく^ノつ^ノへ^ノく^ノり^ノゆ^ノき^ノの^ノ奇

ま^ノら^ノま^ノり^ノか^ノま^ノへ^ノま^ノる^ノ八^ノ雲^ノ抄^ノも^ノ予^ノ賀^ノ浦

手賀嶋肥前ありと云ふ所ありて
久米東をり日釋日本紀筑前風土記に
引て糟金部志賀嶋は神功皇后の御
より名つたて道の傍と云今あやさりま
賢河乃嶋と云中三をり志くはち酒
も志賀の浦は事なるか是まといふ
清於志
ちかたうにほまをかたかたて
ひるちかてとくしはうち道徳知

新説
かひなりやまありてかたかたありて
名考
志賀嶋はちかたかたの由也
師良
志賀嶋はちかたかたの由也
志賀
日
志賀嶋はちかたかたの由也
新六
志賀嶋はちかたかたの由也
志賀嶋はちかたかたの由也

乃山ありされとも草書にたつた
万葉曰
くはうにわは日あまの巧しるを

あなうろくし衣あしめし
大はつ 妹人
あまのくし衣あしめし

新撰註。一を疑居

草書江のつたのうらと詠ふあま

子代子の子代とてうになく形は江皇

帖土郡

吉井村乃小北海中よりありと云

古く大帖

下はものあつりなると云

君らみをおういの志とらん人丸

帖土溪 深江村の西子負村原の如き海溪

松心亭

懐中

はなをまらひあはれおはる風あふ

いものさうくもあつりな

深江海 葛葉集日長奇なり 子負原の下を記す

子負原 こふのく 深江の西より神功皇后所腰

このくらしのむきくらしのむき

志摩郡

韓泊

此郡の事万葉集はおおくのそと

に尤名ある所なり

万葉十五

かゝるものけしめうはてぬ日そ

あまのこひぬ日そ

右遣新羅使到筑前國志摩郡之韓

亭船泊各陳心緒歌六首の内なり

韓

船風のあつくもどなりかゝるもの

百

のこのうらみかゝるものな並み中勢

かゝるものこの浦つらなるる居泊乃

むいみ浦の浦くもなりぬなり

一西よありまのり

おのつらなみぬらつらなるるもの

こ乃ありまのりなるとそなるる

引津 彼志と云ふのやよわきもの入るるの田をぬり

あつさ弓引はのへなるありのりたの花つむ

すてふあふさうあやむなのりたのあ人丸

月十

梓弓引は神へなるあ乃乎さあ

とあさうさくはあをぬるも他えふら

彩物撰ナニ立

あつさあひあつ乃へああなるのりたの

あつさあひあつ乃へああなるのりたの

可也山

ハ雲山抄巻目祝あとうまり借よ

親山

流音島田山麻加や塚小令九

はる市の上なる山也右の村皆此山乃す
は左此山富士山も似たりねよつりけり
云つりつりむつりもあなり形なり凡七面
ありと云げ山乃あ可也の海とく入りあり
佳原也

万葉十五

草抗うひをらりてあねおまて

うの山をよらたしうあも大刺友

左是彩屋使引は亭舶泊之奇七その

内なる と葉より山の引はれを名に引はれ

かやう いともくけりる岩の上

おろし とくにひきつたもの 小町あね

ま 下 おろし の山へり な の 一 の 山

さ を え ら れ る つ ら は ら る あ の 家

立石崎 か や 村 の 西 なる 大 戸 と 云 取 り

坤 の 山 乃 出 崎 を い ひ 一 程 久 我

村 の内 青山 と 云 取 の 南 の 海 中 は さ ら や

岩 あり の 形 也 お 説 と う と ま へ ら り 彼 ら ら

潮 あり の 形 也 お 説 と う と ま へ ら り 彼 ら ら

ま さ ら お ろ し を 立 石 崎 の 一 の 形 也

あ ら う 水 流 る も わ ら る も な ら ず な ら ず 西 何

岩 六 十 三 所 其 立 處 境 地 既 顯 此 外 在 處

未 詳 及 於 本 列 其 有 無 不 分 明 或 名 寄

等 書 誤 取 人 名 為 名 所 者 並 記 之 尤

可 之 布 江 と 云 取 の 南 の 海 中 は さ ら や

乃ららむむるまははらばらたむ

万葉十五
加母ははらばらたむ

おきろきろあきろきろきろ

ゆふま
木綿間山 深根草牙十にきんあまあ

うのきろきろ葉宗像那鏡傍の上乃

高直山健宗るり置人ははゆきろきろ

と云おきろきろあきろきろあまあ

きろわろきろきろ

万葉十四

あつもあんとあつもあつも

あつもあつもあつもあつも

あつもあつもあつもあつも

あつもあつもあつもあつも

神能奉山 八雲山抄深根草牙十にきんあまあ

あつもあつもあつもあつも

あつもあつもあつもあつも

あつもあつもあつもあつも

鳴香^の後 筑前^の室^の人^の傳^の事^の也^の事^の也^の事^の也^の事^の也

上總國^の事^の也^の事^の也^の事^の也^の事^の也

夫木葉 ねん^の事^の也^の事^の也^の事^の也^の事^の也

い^の事^の也^の事^の也^の事^の也^の事^の也

織^の面^の倭^の とも^の事^の也^の事^の也^の事^の也^の事^の也

漢^と云^ふ和^は國^のの^事也^の事^の也^の事^の也^の事^の也

事^の也^の事^の也^の事^の也^の事^の也^の事^の也

及^も小^の江^と云^ふ和^は川^のの^事也^の事^の也^の事^の也^の事^の也

芝^の粉^の返^のの^事也^の事^の也^の事^の也^の事^の也

塔^の草^の日^の筑^の前^の日^の有^の中^の也^の事^の也^の事^の也^の事^の也

和^のも^の事^の也^の事^の也^の事^の也^の事^の也^の事^の也

和^のの^事也^の事^の也^の事^の也^の事^の也^の事^の也

和^のの^事也^の事^の也^の事^の也^の事^の也^の事^の也

和^のの^事也^の事^の也^の事^の也^の事^の也^の事^の也

和^のの^事也^の事^の也^の事^の也^の事^の也^の事^の也

和^のの^事也^の事^の也^の事^の也^の事^の也^の事^の也

和^のの^事也^の事^の也^の事^の也^の事^の也^の事^の也

とて万の迫門と云

大浦 志賀の嶋乃人の名と名取とありて系

系系身十六巻証考一

筑紫の小嶋 系系系六巻と志賀紳大伴

口の部へ上る故友人水城と云ふなりと云

身子と志賀と字と児嶋と云ふ女ありと云

と云ふはわがしと云ふと二首ありと云

のあり奇と日本語乃言信の児嶋と云

と云ふと云筑紫の子嶋おとほ人ともと
あり是名取とありて志賀の女と云うて
志賀子と云後の書とありて筑紫の名
取と云ふは志賀と云ふ人の名なりと
分りたると云ふなりと云

水嶋 肥後國菊地郡とあり筑紫とあり

系系乃奇と云志賀の所故の浦と云

と云ふ嶋と云ふは志賀と云ふなり

後ノ草水ノ筑前ノ海ノ南水ノ加々木
ノ江ノ水ノ凡百餘ノ方角大ニシテ

ハナ

鴻ノ浦 名方ノ筑前ノありては志麻子ノ郡
中ノありて和歌ノ位深山ありてあり
志麻子ノありてはしとありてあり
文治山も志麻子ありてありてあり
志麻子ありてありてありてあり

志麻子ノありてありてありてあり
志麻子ノありてありてありてあり

筑前名寄下終

書于筑舟名寄後

右筑前國各區出于古人之歌詠者凡六十餘
境篤信嘗於諸歌集及古記之中考索之于
茲有年矣且比年巡察於各郡之鄉邑周爰
咨詢而後蒐輯於所聞見以成編若夫萬葉
以下諸集所載在列各境之古歌浩穰而不
遑枚舉於是隨鄙意之所好妄選錄以附各
境之後鮪生煮州菜朴野之人不知和哥固

雖難免於識者之譏笑亦可以為世諺所謂不
往而識各處之助也尚恐攷察之踈謬而有
杜撰之誚博雅之士一觀而刪正之惟幸

元祿辛未重陽日

筑前身原篤信操觚於荒津海濱精舍

卷之四十四

元祿六年歲在癸酉夾鐘穀日
京兆書林柳枝軒茨城方道壽梓



柳枝軒藏書目錄

六角通津東町西八町

小川多丸門

古今醫鑑	全十六冊	博愛心鑑	全二冊	五經	貝原貞	全十一冊
本草辨疑	全五冊	纂言方考	全三冊	小學	同政臣	全四冊
眼科全書	全六冊	同	首書	四書	森松	全十冊
救民妙藥集	全一冊	傷寒條辨	全八冊	古文後集		全二冊
脈位辨心	全二冊	醫宗心讀	全十冊	孝經大義		全一冊
盧經哀腋	全五冊	卷懷食鏡	全一冊	孝學庸	小本	全一冊
救荒本草	全八冊	藥籠本草	全六冊	孝經紀義便蒙	貝原貞信	全三冊
國字醫叢	全五冊	醫學鈞玄	全三冊	慎思錄	貝原貞信	全六冊
螢雪餘話	全五冊	菅家文草	全七冊	六論衍義卷忌		全一冊

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

香月牛山

古本大學講義全三冊	湖亭涉筆全四冊	本朝高僧詩選全二冊
四言教講義全一冊	辨疑錄 <small>伊藤長胤</small> 全四冊	書文式全一冊
五倫大意該解全一冊	皇明詩選全二冊	新選梅花百詠全一冊
參考太平記 <small>水戶</small> 全四十一冊	玉壺詩稿全四冊	史論奇鈔全七冊
同保元平治 <small>水戶</small> 全十五冊	百拙和尚破草鞋全一冊	天民遺言全四冊
袁中良全集全九冊	後園錄稿 <small>祖傳卷</small> 全二冊	呻吟錄全一冊
林塘集全二冊	同名公四序全一冊	崑玉集全一冊
王龍溪全書全十冊	高泉和尚洗雲集全十冊	同後編全三冊
陳后山詩集全七冊	野渡帖 <small>子昂</small> 全一冊	星槎答響全一冊
林和靖詩集全二冊	白雲帖 <small>子昂</small> 全一冊	同餘韻音全一冊
草書兩端全三冊	山花帖 <small>子昂</small> 全一冊	學用集全一冊
山谷墨寶全一冊	三帖一奇 <small>祝文</small> 全一冊	空洞消息 <small>蔡原先生</small> 全一冊
洛陽道詩全一冊	朱子先生一行物 <small>石刻</small>	比倫教 <small>蔡原先生</small> 全一冊
夢花軒帖 <small>增陽伊東學耕</small> 全一冊	長樂帖 <small>尊內</small> 全一冊	紫微字樣 <small>廣次先生</small> 全二冊
赤壁賦 <small>子昂</small> 全一冊	練不老法帖全一冊	右篆彙選 <small>水戶</small> 全五冊
浣花帖 <small>子昂</small> 全一冊	和漢草稿 <small>馬場先生</small> 全三冊	艸露貫珠 <small>水戶</small> 全三冊
洛神賦 <small>子昂</small> 全一冊	隸書坏摸 <small>馬場先生</small> 全三冊	篆體異同歌 <small>廣次先生</small> 全三冊
文敏法帖 <small>子昂</small> 全一冊	和風消息 <small>馬場先生</small> 全三冊	古今諸體 <small>水戶</small> 全二冊
踏々歌 <small>子昂</small> 全一冊	本朝武藝小傳全四冊	出師表 <small>馬場雲山</small> 全一冊
望水帖 <small>子昂</small> 全一冊	武田兵術文稿全三冊	正字通 <small>竹象字</small> 全一冊

書學指南 全一冊 滿中五代記 全十冊 文武訓 貝原篤信 全三冊

難字訓 井沢長秀 全三冊 三忠傳 全二冊 鎌倉實記 全十七冊

漢字和訓 井沢長秀 全二冊 楠七卷書 全七冊 淺井三代記 全十五冊

和漢草字辨 全一冊 志津介藏記 全四冊 難太平記 全二冊

翰墨叢訓 全二冊 保曆閑記 全三冊 南海治亂記 全十冊

保建太記 全二冊 明君家訓 全二冊 七家訓 全七冊

同打聞 谷重遠 全三冊 武士訓 井沢長秀 全三冊 鎌倉志 水戸 全九冊

菊池軍記 井沢長秀 全十冊 諸士男子訓 井沢長秀 全五冊 山城志 並河先生 全九冊

新編東太平記 全十冊 諸州先考 貝原篤信 全七冊 大和志 並河先生 全七冊

甲越戰爭記 全七冊 農業全書 貝原 全十冊 河內志 並河先生 全三冊

點例 貝原篤信 全一冊 農術鑑心記 全二冊 吾野山乃園 貝原篤信 箱入

和爾雅 貝原 全五冊 三禮口決 貝原 全三冊 松島八景 貝原 箱入

筑前名寄 貝原 全二冊 萬寶秘事記 貝原 全三冊 橋立之居 貝原 箱入

京都々々 貝原 全一冊 樂訓 貝原 全三冊 嚴島山居 貝原 箱入

吾孀路乃記 貝原 全一冊 初學訓 貝原 全三冊 家道訓 貝原 全三冊

歧穂路乃記 貝原 全一冊 日本尺名 貝原 全三冊 倭俗訓 貝原 全三冊

大和々々 貝原 全一冊 諺州 貝原 全七冊 始漢事始 貝原 全六冊

有馬場山記 貝原 全一冊 續名數 貝原 全三冊 大廣益俗說辨 井沢長秀 箱入

但馬湯山記 貝原 全一冊 女訓々々 井沢長秀 全二冊 永代節用無盡藏 全五冊

日光名所記 全一冊 女中々々 井沢長秀 全五冊 女々節用莫忘海 全一冊

日本逸史 全七冊 大和怪異記 全七冊 町人代衣 西川求林著 全七冊

奇異雜談 全六冊 商人夜話 全三冊

舞水朱氏談奇 水戶 全四冊 怪異辨斷 西川先生 全八冊 百姓代衣 西川求林著 全三冊

舞水文集 水戶 全卅冊 今昔物語 井沢長秀 前後 全卅冊 諸家譜 貝原篤信 全三冊

花押數 水戶 全七冊 會津孝子傳 全五冊 清少納言春曙抄 全五冊

同 續 水戶 全七冊 家内用心集 全三冊 算學啓蒙 全三冊

古押譜 水戶 全七冊 同 諭草 笑月翁 全三冊 同 注解 全六冊

野中九清水 小重垣翁 全四冊 長崎夜話草 西川求林著 全三冊 同 詠解 全七冊

魔入追道 全三冊 庭訓往來 全一冊 曆鑑輯要 全一冊

大和女訓 井沢長秀 全三冊 同 三卷抄 全三冊 天門義論 西川求林著 全三冊

日本水土考 西川求林著 全一冊 異制庭訓 全一冊 古梅園墨譜 全四冊

水上解辨 全二冊 新用文章 全一冊 本朝怪談故事 全四冊

天門和歌注 西川求林著 全二冊 土佐國式社考 西川求林著 全一冊 燕南記譚 全四冊

虞書管蒙俗解 西川求林著 全三冊 元亨秋書抄 王臣傳論 全一冊 同 後集 全二冊

假名謡 内百番 全廿冊 天瓊牙記 井沢長秀 全二冊 尺牘奇賞 全四冊

同 外百番 全廿冊 繪本朝日山 西川祐信 全三冊 洪武正韻 全六冊

小本百廿番 近衛流 全廿冊 瀧本真跡百人首 全一冊 蒙學入門 全一冊

拾遺大成謡 内百番 全廿冊 短尺百人一首 全一冊 神代鹽土傳 全五冊

同 外百番 全廿冊 食療正要 松岡玄遠 全三冊 醫術家傳集 全一冊

久世舞 全二冊 傷寒擇註 中山元亨 十冊 豐年記 全二冊

山城名勝志	全卅卷	東見記	全二冊	俵藤太物語	全二冊
天門八卦鈔	全三冊	賈嶋長江集	全三冊	東海紀行	全二冊
甚久狂歌集	全二冊	神道大意	全一冊	歸家日記	全二冊
二十四孝諺解	全一冊	中國猫談	全一冊	自語論	全五冊
孝子正助傳	全一冊	股勾玄鈔	全一冊	儼熟集	全十卷
孔聖生卒考	全一冊	孝子良民傳	全二冊	寸鉄録	全一冊
今川戸川筆	全一冊	武藏道州	全一冊	和歌往事集	全五冊
兩韻備考	全一冊	甘諸記	全一冊		
空華和歌集	全三冊	松嶋夜話	全一冊		
雀庵文集	全十冊	礼式書札	全二冊		

武經開宗	十四冊	詩格素本	全二冊	尺牘雙魚	全四冊
廣益略韻	全八冊	回春大字	全五冊	古梅園墨譜後編	全五冊
仕學齋先生文集	全九冊	四書集註	全十冊		
神代卷藻鹽州	全六冊	印判正誤	全二冊		
洲菴文集	全五冊	名詮	全二冊	典詮	全一冊
天朗法帖	全一冊	同圖式	全四冊	三大師尺牘	全一冊
孝經	全一冊	字林長歌	全二冊	學教創文章	全一冊
勸農固本錄	全二冊	規矩分等集	全二冊	大和名跡志	全十冊
塵鶴銘	全一冊	異同歌補闕	全一冊	顏魯公墨妙	全一冊
定式蘭亭記	全二冊	本朝軍器考	全九冊	扶桑鐘銘集	全三冊

五



長雄筆海用文

全一冊

神路事觸

全三冊

見聞獨步行

玄士道人

全一冊

日月卦傳鈔

全一冊

神風惠州

全三冊

關路提挑灯

玄士道人

全一冊

同 後篇

全一冊

尺牘式

大典禪師

全三冊

迷中足休

玄士道人

全一冊

毒

玄士道人

